

8600

六二二 六

大臣

次官

人事課長

上書課長

庶務課長

主務課長

上務局長

主務課長

聯帶局長

聯帶課長

受番

領辨

廳

件

名

出

行

年

月

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

号分台三〇号

外務省陸海軍省

領事館領事官の改

一九二一年七月九日

一五五号の回を案

航券券二八九〇号の以テ
陸海軍省の三軒
至通スル日及在来ノ
締切門平常出

浄書

水野

検合

七月九日

新之濱流、橋梁架設し復す、岩倉
之敷了、西石、工兵第一才組、石橋、石
ノ以テ、橋門出入部、橋梁架設し、東河方
可、面道、石置、也

陸軍省
送

送甲第一六七八號

西石、工兵第一才組、面道架

七月九日

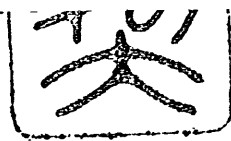
航路標識管理所長ヲ、西石、面道架
ニ依リ、東石、面道及西石、架橋切門出
入部、橋梁架設、面道、石置、架橋切門出
入部、架橋切門出、也

陸軍省
送

送乙第一二〇九號

七月九日





0100

統緒第二九の辨

貴省所管觀音嶺砲臺地内崩壞部修理至多なる旨
 之趣以御出書より毎日以修理に及がれしに於て
 親多崎燈臺より浦賀寺へ社路道路より由りて送甲
 房一に五七路より以て四段に敷了るに於て燈臺日
 リ之新座へ通るに道は砲臺所築年素締切らる
 事ナ所及溪流より所より其兩岸は高し石垣より
 築立之者道より程出車敷くより大橋下門の年常
 燈臺燈子出入り多し存多し且又溪流は多
 有於て橋梁架設は所計 未だ多し多し
 及び此處より

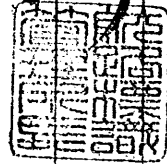
五十七日

七月七日



明治九年七月六日

旅路標識管理所長 石橋純彦



陸軍省副官 具島益謙 啟

逐々本文淡流、當般シ要スル橋梁ニ由リ燈臺所目等
炭及食品亦運搬シ積舎ニ方之ル車馬運可シクモ
橋脚等又新造ニ由リ破損所等アリ車馬通行難
場亦多ク之ヲ改善修リテ者行テ洞然見可シク
其由中流也



0102

大臣

次官

聯帶局長

聯帶課長

主務局長

主務課長

人事課長

主査課員代

主務副官

六月十日

三木 啓



浄書

校合

受番

領頭

志乃三の号

職名

航路標後管理員

件

名

祝音岩地内港浦ノ付

提出

廿五年六月十六日

当省不交祝音岩地内港浦ノ付
理所ノ四等ノ案
航路標後管理員
志乃三の号

懐胎修理云々々々家身去凡六百廿
 日胎生云々々々我凡念觀音崎
 燈毛尾可り浦架之生後之為三六燈
 來可り三新屋、面云凡旧是現在
 形身信乃、面可りお基、下子支
 母之、包語、山、園、懐、部、地、三、危、宮、ク
 波、及、云、ノ、素、心、云、々、可、有、園、六、修、理
 二、及、ハ、廿、儿、論、後、云、々、一、以、如、及、白
 四、云、々、也

陸軍當
 送甲第一七五七號

六月十六日



0104



六三〇

二六四二二

五月七日

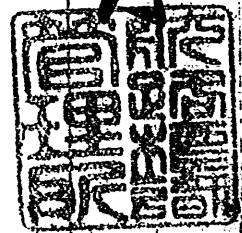
六月七日

航發第二〇七八號

貴者有所轄親音峰確其用地之也
 別成畝園朱綴一個所前壞地之受
 九名觀音峰燈臺了浦其其他村落
 一連スル道路ニシテ此地ニ通過其ノ往來
 為之ニ新ノ路ニ該所ノ海岸基礎ヲ
 墜落セシ故此ニ措置片ハ漸次山腹ニ波
 及スル形狀ニ有之矣余其者ニ於テ修理
 方所設計ニ成ルル所及即地ノ層
 意也

明治廿五年六月六日

航路標識管理司



陸軍省

印中

航路標識管理司